

2017年11月15日
 ちばぎん総合研究所
 ぶぎん地域経済研究所

千葉県・埼玉県企業アンケート調査の比較分析（第3回）

「ちばぎん総合研究所」および「ぶぎん地域経済研究所」では、千葉・武蔵野アライアンス（注）の下で、千葉県・埼玉県の企業アンケートに共通の調査項目を設定し両県の比較分析を行った。「17年度の国内景気見通し」、「決算状況」について、共通の調査を実施した。

（注）16年3月に締結した包括提携契約。

（ちばぎん総合研究所＜千葉経済センターから調査を受託＞）

業種別・本社所在地別・規模別回答企業数

（単位：社）

	合計	本社所在地		企業規模	
		県内	県外	大企業	中小企業
全産業	239	211	28	70	169
製造業	129	113	16	31	98
食料品	27	23	4	10	17
石油・化学	12	8	4	5	7
プラスチック	9	8	1	1	8
窯業・土石	15	15	0	3	12
鉄鋼・非鉄金属	6	6	0	0	6
金属製品	15	11	4	4	11
一般・精密機械	9	9	0	2	7
電気機械	10	10	0	2	8
輸送用機械	12	10	2	3	9
その他製造	14	13	1	1	13
非製造業	110	98	12	39	71
建設	11	10	1	3	8
運輸・倉庫	16	16	0	5	11
卸売	25	22	3	7	18
小売	18	16	2	7	11
ホテル・旅館	10	7	3	5	5
サービス	30	27	3	12	18

調査要領	
1. 対象企業…	千葉県内に本社または事業所を有する企業
2. 方法…	郵送によるアンケート方式
3. 実施期間…	配布：2017年 9月1日 回収：2017年 10月13日
4. 回答状況…	調査対象企業 571社 内有効回答数 239社 有効回答率 41.9%

（注）調査票の回収数は239だが、設問ごとで回答数が異なるため、各問での有効回答数（母数：n）は異なる。

注）大企業、中小企業の区分は下記による。
 大企業…資本金1億円以上。ただし、卸売業は5,000万円以上、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円以上とする。
 中小企業…資本金1億円未満。ただし、卸売業は5,000万円未満、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円未満とする。

(ぶぎん地域経済研究所)

業種別・規模別回答企業数

(単位:社)

	合計	企業規模	
		100人以上	100人未満
全産業	224	105	119
製造業	128	55	73
紙加工品等	11	2	9
化学・プラスチック・ゴム製品	9	3	6
鉄鋼・非鉄金属	11	6	5
金属製品	8	4	4
その他素材型	16	2	14
一般機械器具	11	7	4
電気・情報通信機械器具	12	3	9
電子部品・デバイス	10	2	8
輸送用機械	9	8	1
精密機械	7	3	4
飲・食料品	9	5	4
印刷・同関連業	9	7	2
その他製造業	6	3	3
非製造業	96	50	46
一般建設	17	4	13
住宅建設	9	6	3
卸売	16	5	11
小売	21	13	8
運輸・倉庫	10	8	2
不動産	7	2	5
その他非製造業	16	12	4

調査要領	
1. 対象企業…	埼玉県内に本社または事業所を有する企業
2. 方法…	郵送によるアンケート方式
3. 実施期間…	配布:2017年7月25日 回収:2017年8月25日
4. 回答状況…	調査対象企業 565社 内有効回答数 224社 有効回答率 39.6%

(注1)従業員100人以上を「企業規模の大きい企業」に、
従業員100人未満を「規模の小さい企業」とした。

(注2)その他素材型は、繊維・衣服・その他の繊維、木材・木製品・家具、
窯業・土石の3業種。

* (参考) 千葉県と埼玉県の産業構造の比較

	単位	年次	全国	千葉県	順位	埼玉県	順位
事業所数	力所	2014	5,541,634	194,877	9	249,078	5
住宅着工	戸	2016	967,237	49,572	6	61,981	5
商店数	店	2014	1,407,235	48,366	9	58,581	6
商品販売額	億円	2014	478,828	10,626	9	14,333	7
製造品出荷額等	億円	2016	3,052,608	123,993	6	122,896	7
延べ宿泊者	万人	2016	49,418	2,156	5	445	34

事業所数(経済センサス基礎調査2014年)

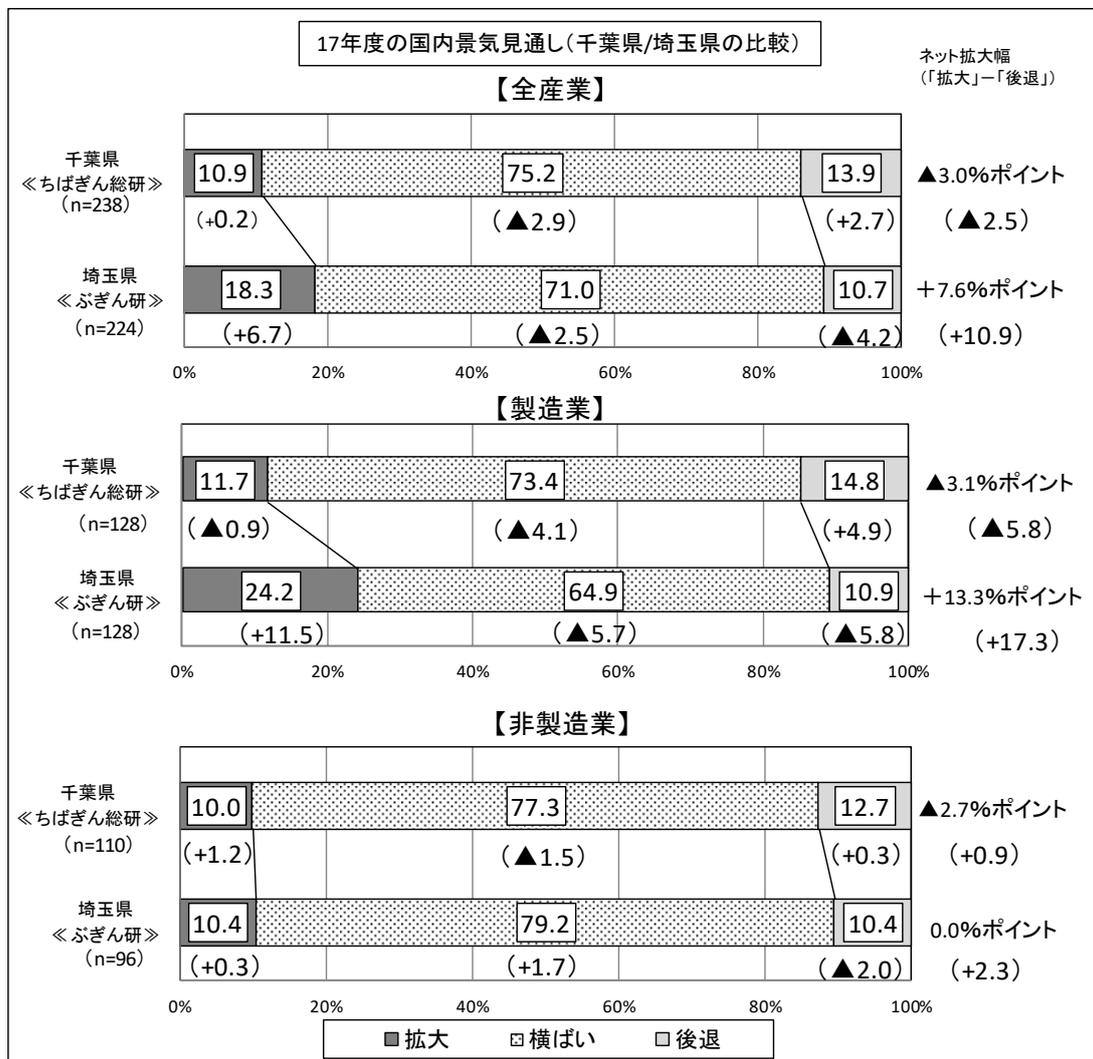
	千葉県	構成比 (%)	埼玉県	構成比 (%)
全産業(公務を除く)	194,877	-	249,078	-
農林漁業	1,014	0.5	613	0.2
建設業	21,035	10.8	27,107	10.9
製造業	11,884	6.1	28,571	11.5
石油化学	489	0.3	756	0.3
鉄鋼	418	0.2	479	0.2
食料品	1,605	0.8	1,616	0.6
一般・電気機械	2,188	1.1	6,742	2.7
輸送用機械器具	303	0.2	1,190	0.5
情報通信業	1,560	0.8	1,834	0.7
運輸業, 郵便業	5,574	2.9	6,966	2.8
卸売業, 小売業	48,366	24.8	58,581	23.5
不動産業, 物品賃貸業	13,468	6.9	18,090	7.3
宿泊業, 飲食サービス業	25,779	13.2	28,628	11.5
生活関連サービス業, 娯楽業	19,923	10.2	23,496	9.4
医療, 福祉	16,063	8.2	19,275	7.7
サービス業	12,079	6.2	13,604	5.5
その他	18,132	9.3	22,313	9.0

産業分類別 製造品出荷額(経済センサス活動調査2016年)

	千葉県 (億円)	構成比 (%)	埼玉県 (億円)	構成比 (%)
製造業合計	123,993	-	122,896	-
素材型	78,093	63.0	40,044	32.6
化学	22,914	18.5	16,821	13.7
石油製品・石炭	28,691	23.1	245	0.2
鉄鋼	17,686	14.3	2,912	2.4
プラスチック	2,641	2.1	6,097	5.0
窯業・土石・繊維	3,359	2.7	3,305	2.7
非鉄金属	1,629	1.3	6,264	5.1
パルプ・紙・紙加工品	1,174	0.9	4,400	3.6
加工型	21,568	17.4	51,243	41.7
輸送用機械器具	1,270	1.0	19,157	15.6
電気機械器具・情報通信	3,154	2.5	9,596	7.8
業務用機械器具	1,695	1.4	3,555	2.9
生産用機械器具	4,475	3.6	5,188	4.2
電子部品・デバイス・電子回路	2,803	2.3	3,527	2.9
はん用機械器具	2,331	1.9	3,955	3.2
金属製品	5,841	4.7	6,265	5.1
生活関連・その他	24,332	19.6	31,609	25.7
食料品	18,236	14.7	18,892	15.4
その他(ゴム・家具等)	6,096	4.9	12,716	10.3

（17年度の国内景気見通し）

17年度の国内景気見通しを前年と比較したところ、両県とも「横ばい」が最も多いが、埼玉県で「拡大」が「後退」を上回る一方、千葉県では「後退」が「拡大」を上回った（全産業）。「拡大」社数構成比から「後退」社数構成比を引いた「ネット拡大幅」をみると（同）、千葉県：▲3.0%ポイントに対し、埼玉県：+7.6%ポイントとなった。埼玉県では自動車部品など加工組立産業のウエイトが高く、海外経済の好転と為替の円安基調から、6か月前の調査からの改善幅も製造業を中心に大きくなった。なお、千葉県は、埼玉県よりもアンケート実施が1カ月遅く、回収時期が北朝鮮の相次ぐミサイル発射や衆議院解散・選挙機運高まりの時期と重なったことが経営者のマインド慎重化に繋がった可能性が高い。



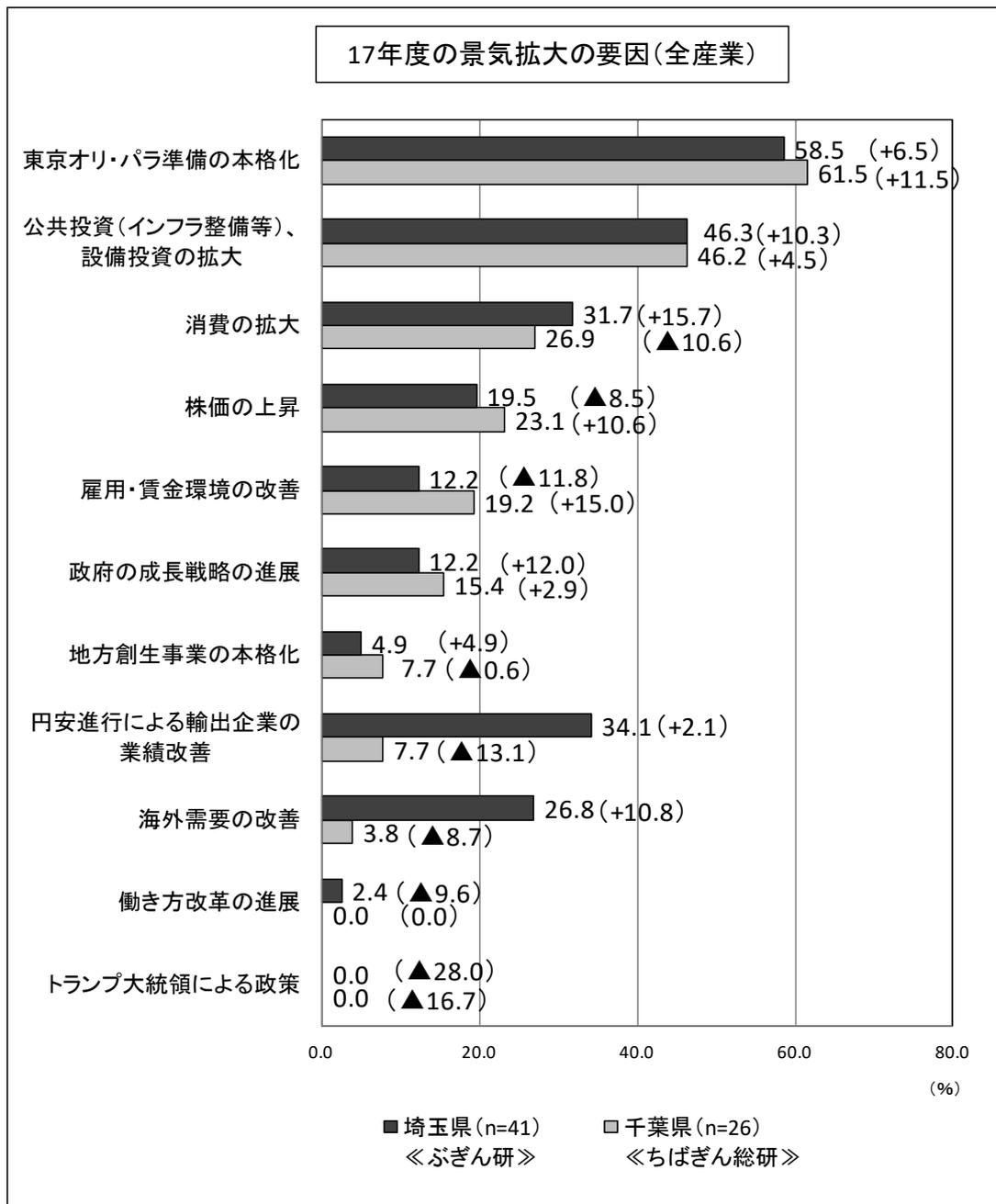
() 内は各研究所の前回調査比変化幅、単位%ポイント

		調査期間	回答数	期間中の日経平均 終値平均	期間中の為替相場 (ドル円)の平均
千葉	前回	17年3月1日～4月11日	226	19,205.04円	112.48円/ドル
	今回	17年9月1日～10月13日	239	20,181.50円	111.27円/ドル
埼玉	前回	17年1月23日～2月17日	215	19,144.87円	113.48円/ドル
	今回	17年7月25日～8月25日	217	19,771.67円	110.24円/ドル

(17年度の景気拡大の要因)

「拡大」と回答した企業に対し、その要因をたずねたところ、両県とも「東京オリ・パラ準備の本格化」の回答割合が最も高く、「公共投資（インフラ整備等）、設備投資の拡大」が続いた。埼玉県では「円安進行による輸出企業の業績改善」が続き、「海外需要の改善」とともに千葉県を大きく上回っており、これが全体の景況感の差につながっている。

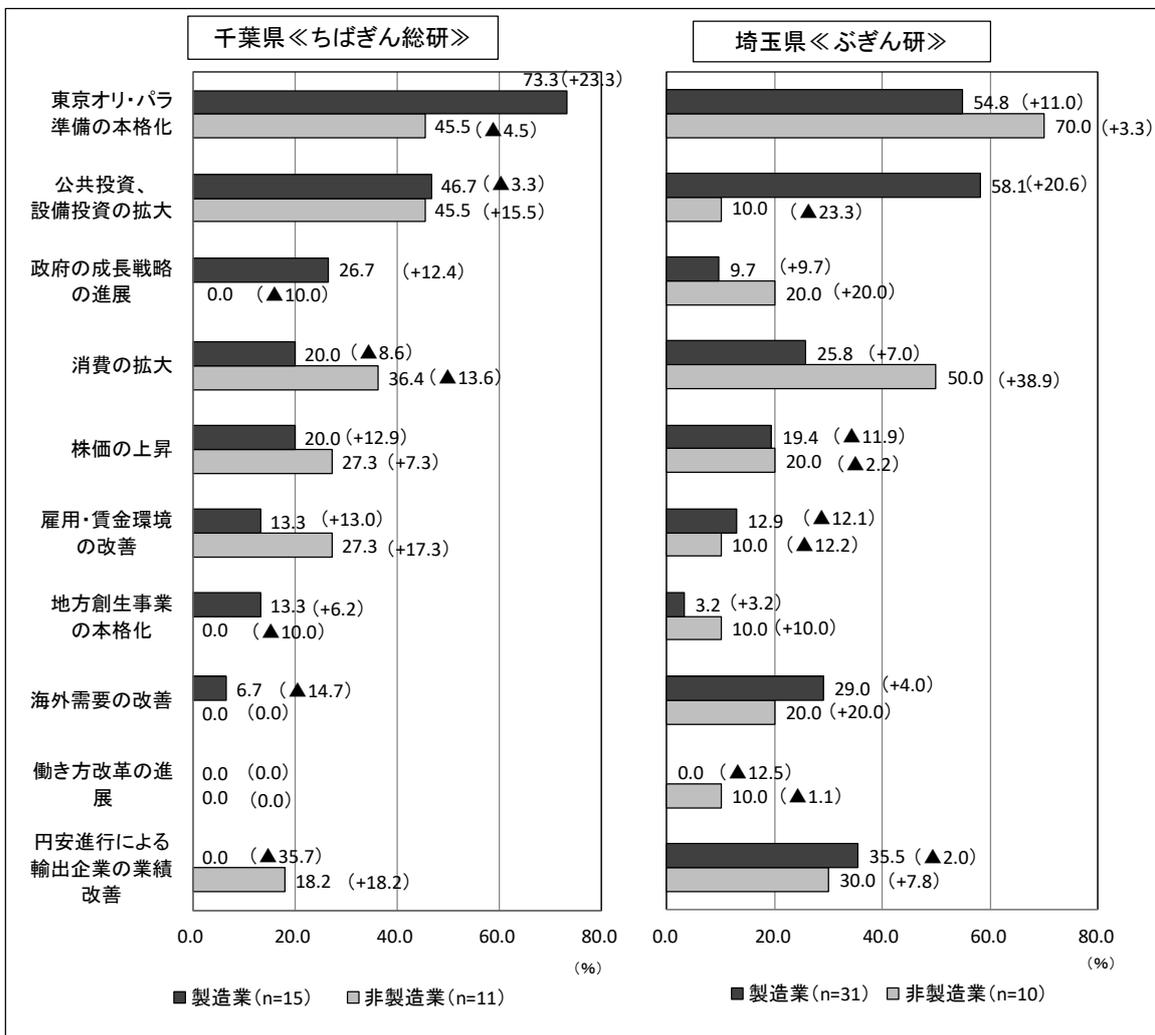
この間、「消費の拡大」は、景気の拡大要因として、両県でほぼ同程度に高い割合を占めるが、景気の後退要因（後述）でも「消費の低迷」を挙げる先の割合がそれぞれ最も高く、個人消費の行方が拡大要因にも後退要因にもなる点で共通している。



() 内は各研究所の前回調査比変化幅、単位%ポイント

製造・非製造別にみると、製造業では「東京オリ・パラ準備の本格化」、「公共投資（インフラ整備等）、設備投資の拡大」の回答割合が高いことは両県とも共通している。埼玉県では、次いで「円安進行による輸出企業の業績改善」、「海外需要の改善」の割合が高いが、千葉県では、これらを挙げる先が少なかった。

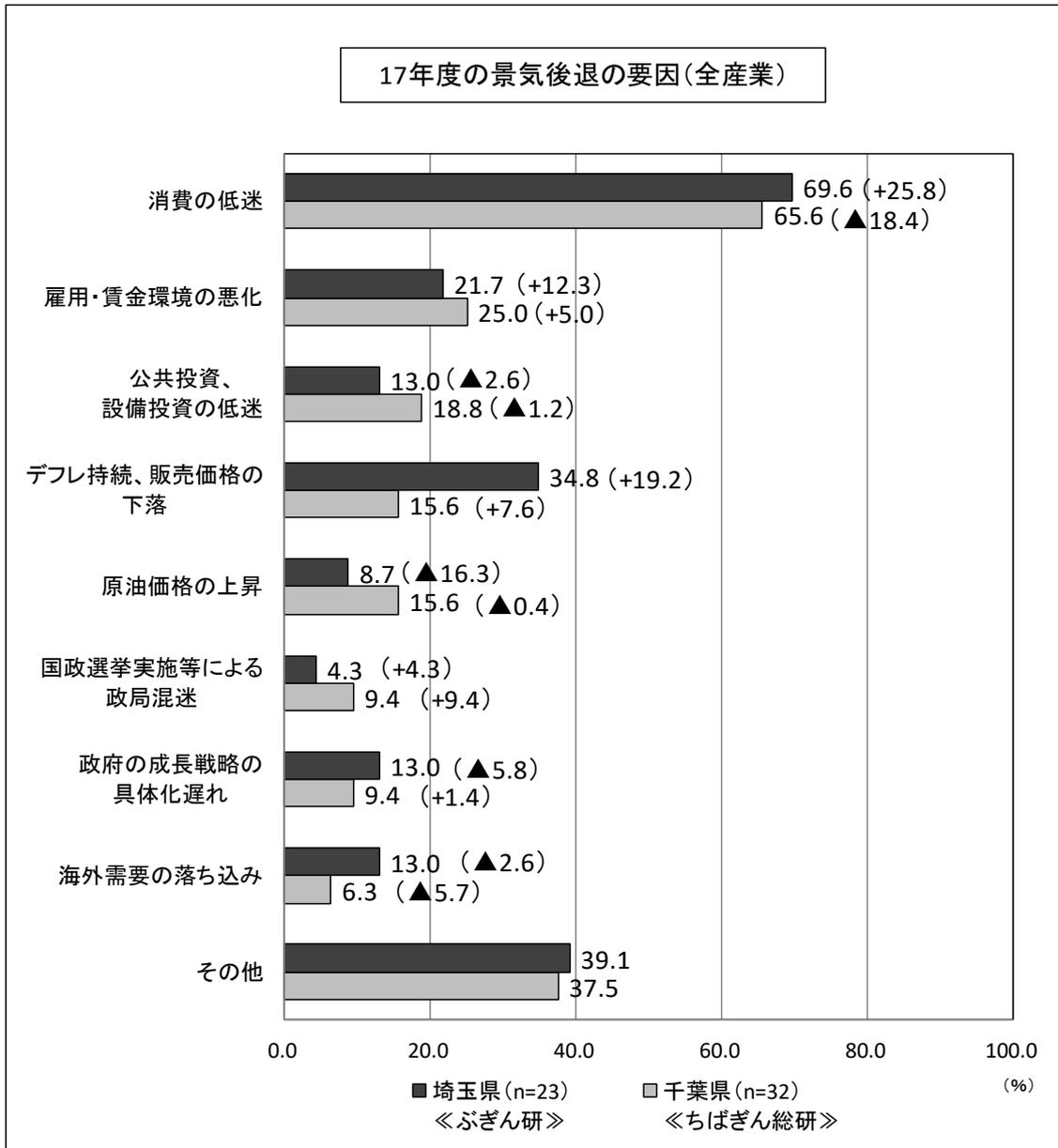
非製造業でも「東京オリ・パラ準備の本格化」が両県で高い割合を占めている。オリ・パラ以外では、千葉県で2位の「公共投資、（インフラ整備等）、設備投資の拡大」（45.5％）は、埼玉県では7位（10.0％）に止まった。また、埼玉県では、「消費の拡大」が前回比大幅に増加した（+38.9％ポイント）。



() 内は各研究所の前回調査比変化幅、単位%ポイント

(17年度の景気後退の要因)

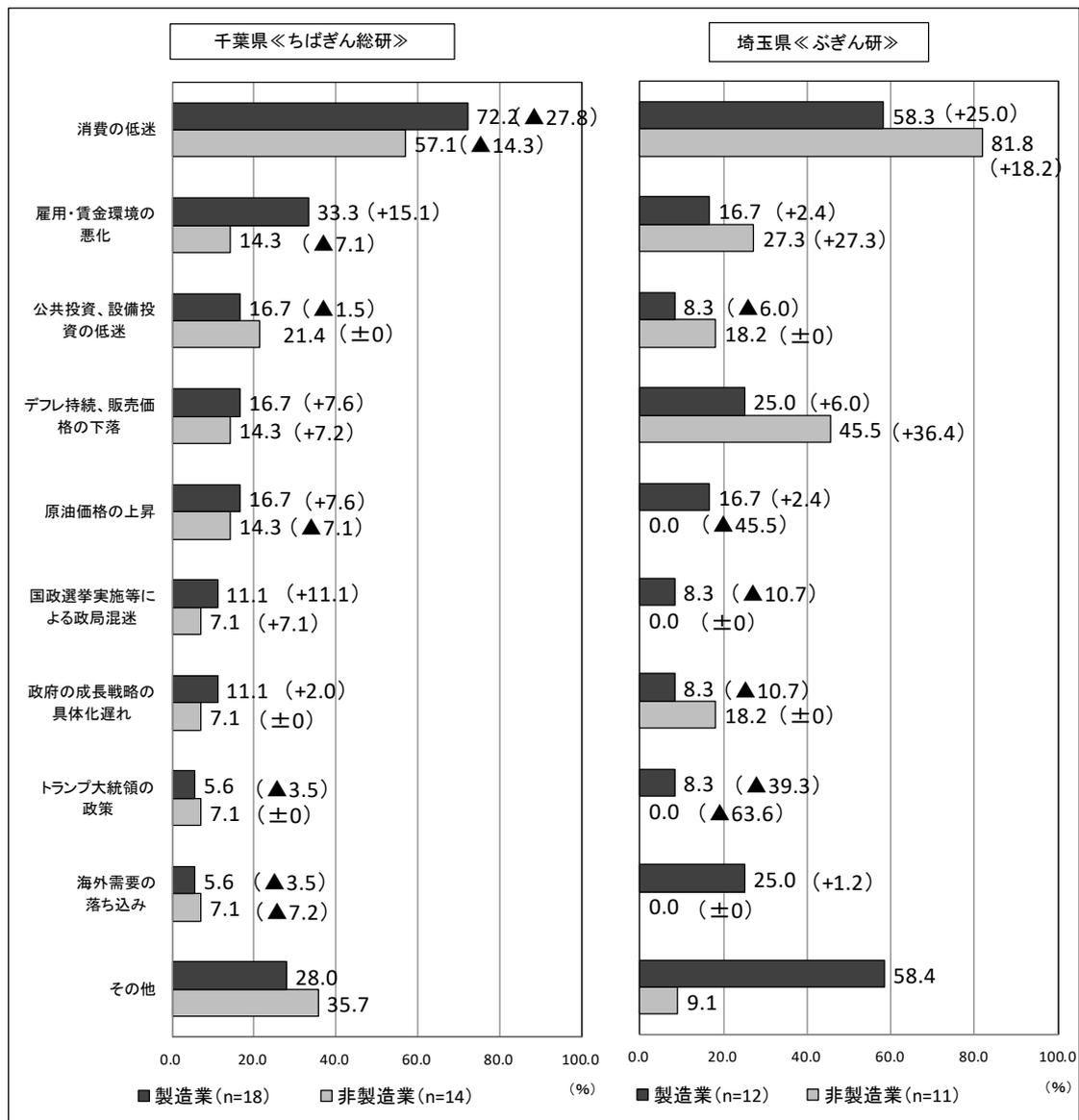
景気後退と回答した企業に要因をたずねたところ、両県とも「消費の低迷」の割合が最も高かった。埼玉県では「デフレ持続、販売価格の下落」(34.8%)が次いで多く、千葉県(15.6%)を大きく上回っている。



() 内は各研究所の前回調査比変化幅、単位%ポイント

製造・非製造別では、ともに「消費の低迷」が最も多いことは両県で共通しているが、業種によって見方が分かれた（千葉県では食品製造など製造業の、埼玉県では、建設業など非製造業の比率が高かった）。

「消費の低迷」以外をみると、製造業では、千葉県は「雇用・賃金環境の悪化」を挙げる先が多く（33.3%）、埼玉県は、「デフレ持続、販売価格の下落」を挙げる先が多い（25.0%）。非製造業では、千葉県は「公共投資、設備投資の低迷」（21.4%）が多く、埼玉県は、「デフレ持続、販売価格の下落」（45.5%）が多かった。



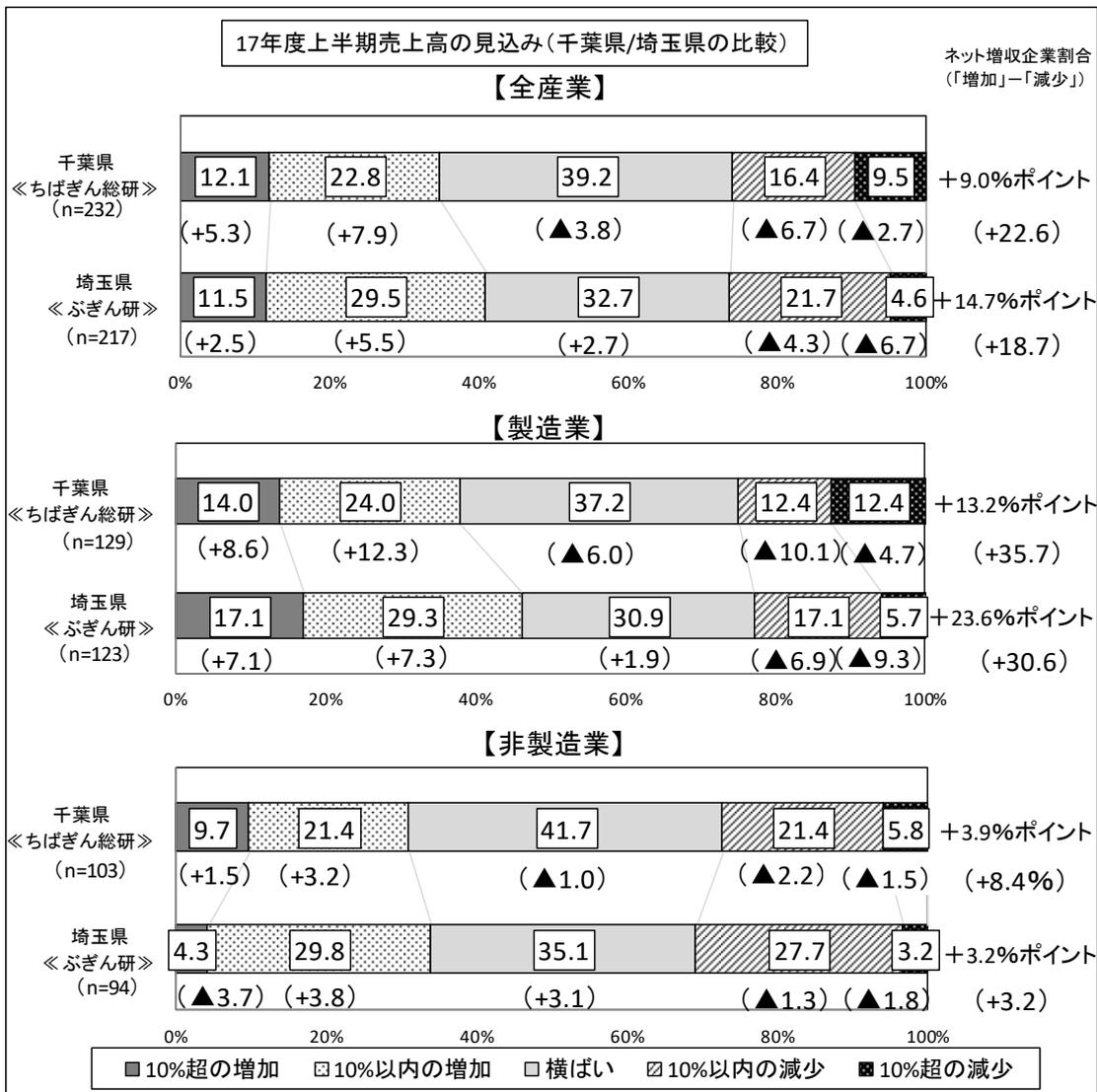
() 内は各研究所の前回調査比変化幅、単位%ポイント

(17年度上半期業績)

決算状況は、17年度上半期業績（対16年度上期比変化）と17年度通期見通し（対16年度通期比変化）について調査した。

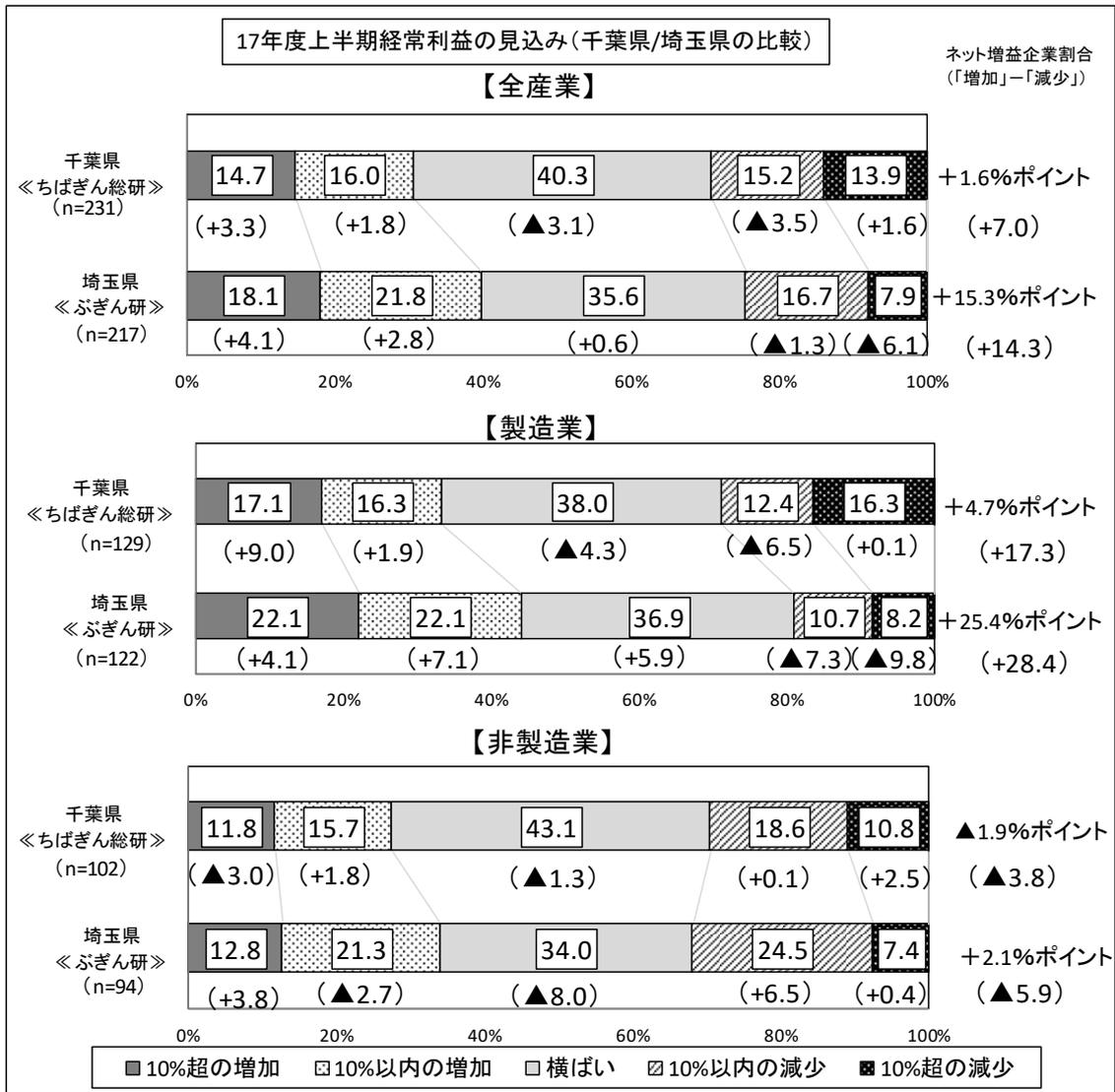
上半期業績のうち、売上高をみると、「増収」社数構成比から「減収」社数構成比を引いた「ネット増収企業割合」は両県ともプラスとなった。両県比較では、埼玉県（+14.7%ポイント）が千葉県（+9.0%ポイント）を上回った。加工組立産業の割合が高い埼玉県では、好調な外需や円安を背景に製造業（+23.6%ポイント）の増収企業割合が高く、これが全産業の差に反映されている。

一方、1年前に実施した前回調査と比較した改善幅は、千葉県（+22.6%ポイント）が埼玉県（+18.7%ポイント）を上回った。千葉県では、業種ウエイトの高い鉄鋼や石油・化学など、製品値上げが進んだ製造業の改善幅（+35.7%ポイント）が大きい。



() 内は各研究所の前年調査比変化幅、単位%ポイント

経常利益も「ネット増益企業割合」は、埼玉県（+15.3%ポイント）が千葉県（+1.6%ポイント）を上回った。前年調査との比較では、売上高と異なり、埼玉県（+14.3%ポイント）が千葉県（+7.0%ポイント）を上回った（全産業）。製造業において、埼玉県の方が円安の収益寄与度が高いとみられる（埼玉県：+28.4%ポイント、千葉県：+17.3%ポイント）。

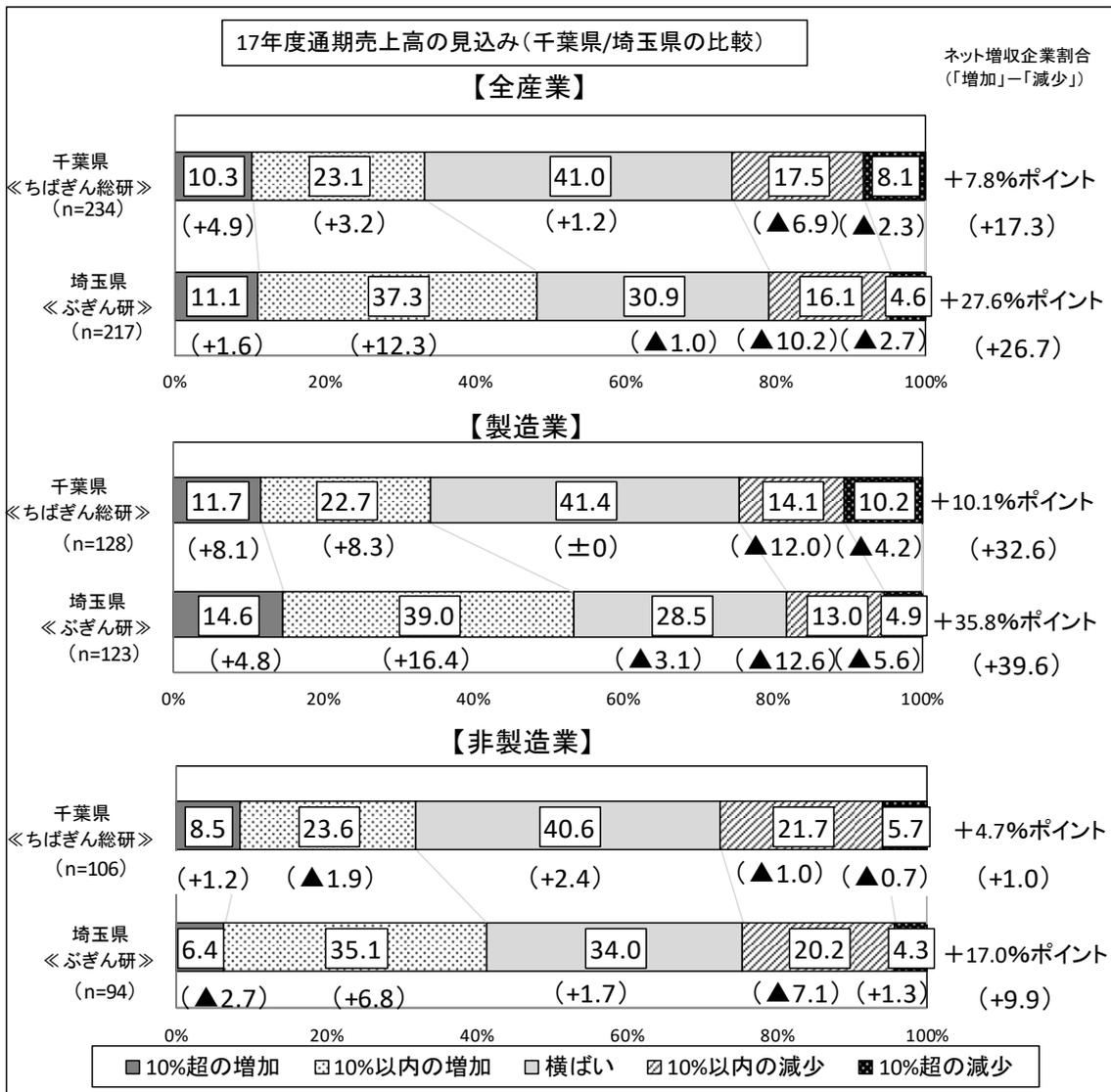


() 内は各研究所の前年調査比変化幅、単位%ポイント

		調査期間	回答数	期間中の日経平均 終値平均	期間中の為替相場 (ドル円)の平均
千葉	前年	16年9月1日～10月11日	225	16,756.86円	102.22円/ドル
	今回	17年9月1日～10月13日	239	20,181.50円	111.27円/ドル
埼玉	前年	16年7月27日～8月23日	232	16,565.28円	101.73円/ドル
	今回	17年7月25日～8月25日	217	19,771.67円	110.24円/ドル

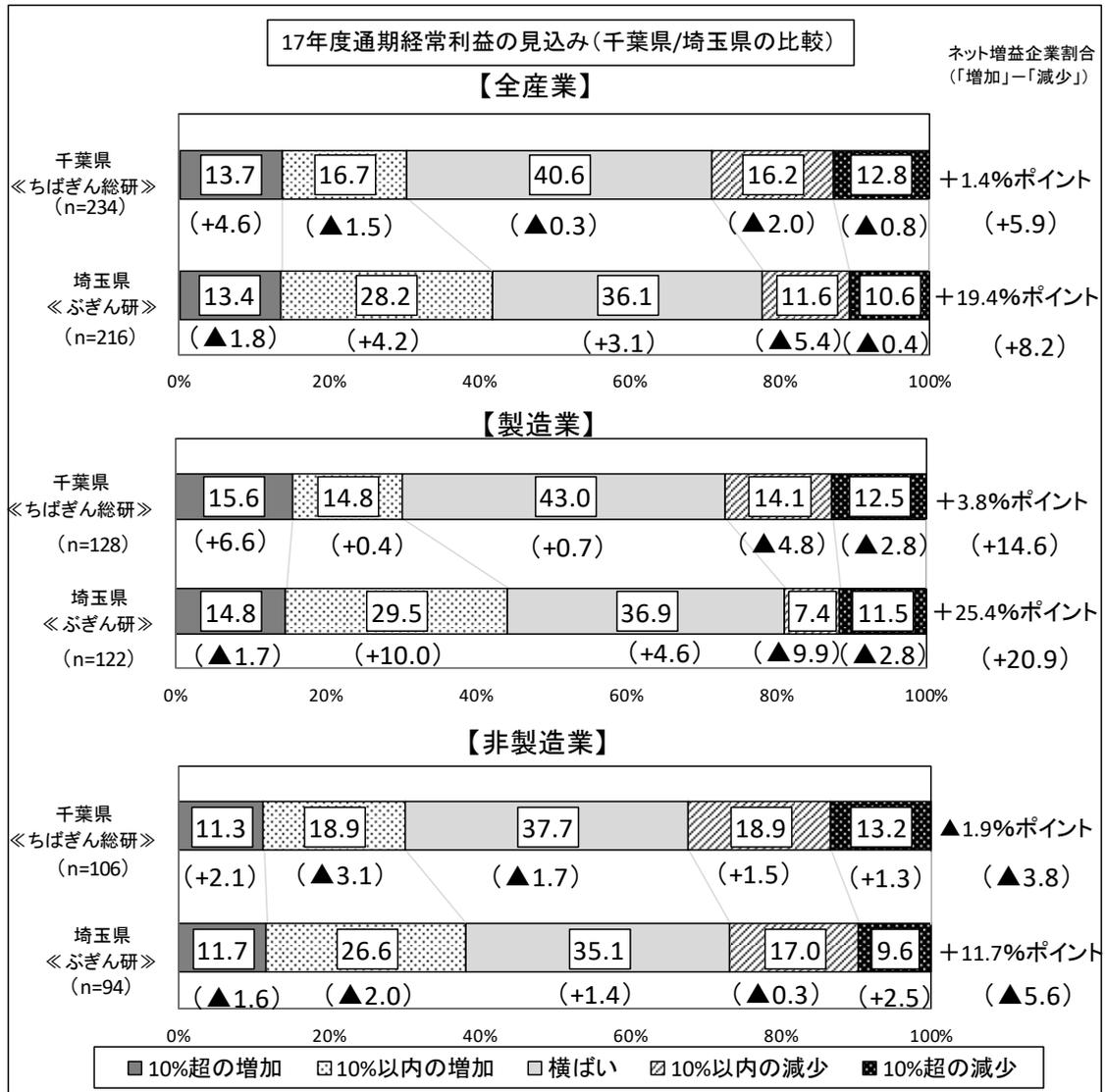
(17年度通期業績見込み)

通期業績（対16年度比増減）の比較では、ネット増収企業割合は、埼玉県（+27.6%ポイント）が千葉県（+7.8%ポイント）を上回った。千葉県では、素材関連の値上げ一服予想などから、製造業でやや減速（上半期：+13.2%ポイント→通期：+10.1%ポイント）するほか、非製造業も微増（同+3.9%ポイント→+4.7%ポイント）となっているが、埼玉県では、堅調な海外需要や円安持続を背景に製造業（同+23.6%ポイント→+35.8%ポイント）、また不動産・建設業を中心に非製造業（同+3.2%ポイント→+17.0%ポイント）も改善し、下期にかけて業績の一段の伸長を予想している。



() 内は各研究所の前年調査比変化幅、単位%ポイント

経常利益の見込みも埼玉県（+19.4%ポイント）が千葉県（+1.4%ポイント）を上回った。千葉県では、製造業でやや減速（上半期：+4.7%ポイント→通期：+3.8%ポイント）し、非製造業は横ばい（同▲1.9%ポイント）。埼玉県では、製造業は横ばい（同+25.4%ポイント）だが、非製造業が改善見通し（同+2.1%ポイント→同+11.7%ポイント）。



() 内は各研究所の前年調査比変化幅、単位%ポイント

以上